

# 『速水流茶道初心聞書』 人

井川健司\*

国立国会図書館には、千家最後の分流となった速水流の茶書が二種収蔵されている。一は『喫茶名月集』・『茶事譚』と題する二書であるが、中味は速水宗達の著『喫茶指掌編』月之部（文政八年刊）と同一で、再版・版本写ゆえ資料的価値を問うものではない。しかし、もう一種の『速水流茶道初心聞書』は、内容が速水家（滌源居）の茶を知るうえで不可欠な基礎知識を記すものであり、類書を見ない点から資料としての意義が認められる。

此の書は、天・地・人の三冊から成るが、外題は天・地が同じながら「人」は『速水流茶道七事稽古聞書』とあつて異なり、また内題も地人各々「速水流茶道初傳聞書」が「肄業稽古式之集」であつて外題・内題にズレがある。この点から、此の三冊を一書と見做してよいか一応疑われるが、一筆書きであること、「天」の内容が初心者への為の図解による茶事知識、「地」が諸点前手順の口授を文章化したもの、

「人」が速水流の特徴的稽古式の概説である事から、題のズレは内容との関連が生じたとみられ、三冊で一書とみなされると判断できる。本書の成った時期だが、第一部「天」に、鼻祖宗達の孫・三世宗寛（文化十年へ一八一三）―明治九年へ一八七六）を当代とするゆえ、幕末頃と考えられよう。

さて、本稿では当書の三冊目、『速水流茶道七事稽古聞書』を翻刻紹介する。選んだ理由としては、速水宗達が師事した裏千家八世又玄斎一澄宗室門から自立し、やがて一つの流派を築いた、その茶の特徴の一端が、稽古式に現われているからである。例えば、彼は天明六年（一七八六）、光格天皇の弟宮聖護院宮益仁法親王を御客に迎えて初めて見え、亭主をつとめている（東北大学図書館狩野文庫所蔵宗達自筆会記）。

彼の茶は、儒学をはじめとする様々な学問にみがかれ、創意工夫が凝らされて、雲上人・堂上貴族にも知遇を得、その結果として他流にはない稽古式（櫻橘式）を生むのである。勿論、この場合、これ以前に雲上人や堂上貴族に相応しい、清潔で品格のある点前が創出されていた。

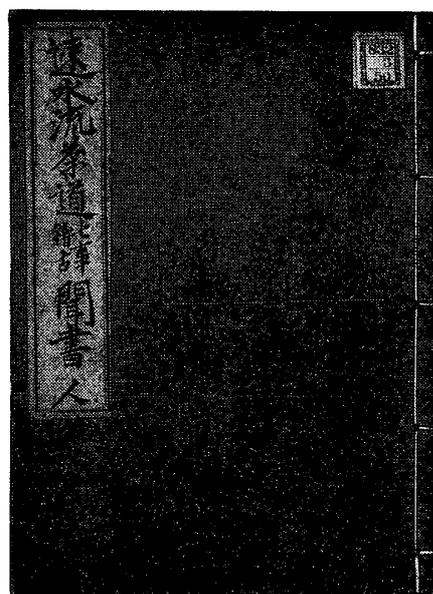
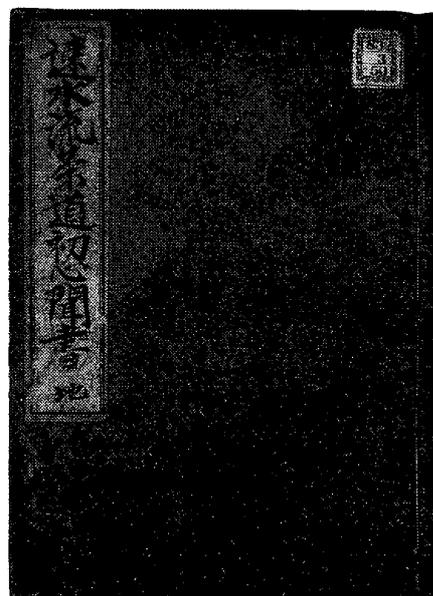
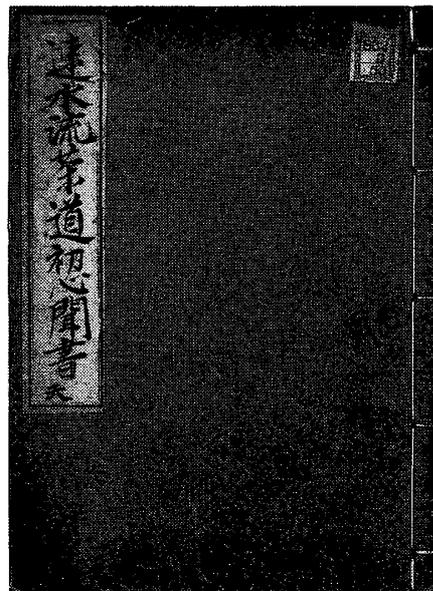
なお、著者が一丁ウに記す如く、当本は速水流稽古式（肄業式）のうち、特に当流のみの二式と、所謂七事式中で他流と相違の大きなものを選んで、速水流の特徴の一を伝えている。

## 凡 例

- 一 本書は国立国会図書館所蔵にかかるものである。
- 一 本文には適宜、句読点・中点を付した。
- 一 読み・語義の通じにくいものには、適宜右横カッコ内により仮名・正字を付した。

一才

舞イ  
 業キヤウ  
 秘ケイ  
 音ユ  
 古シキ  
 式ノ  
 之アツメ  
 集



明星大学研究紀要【日本文化学部・言語文化学科】第二号 一九九四年

一ウ

七事式ヲ速水流ニテ肄業<sup>イキヤウ</sup>ト申唱候事ハ、千家  
 定式七事之外ニ、花―橘、雪―月―花、二事加候故ニ  
 九事ニ相成候。依之、肄業<sup>イキヤウ</sup>ト申候ナリ。

但シ、七事式、別紙委シキ常式本え、速水流書加えヲキ

候得共、事六ヶ數分、控印。并、花―橘、雪―月―花、他流ニ  
 不承候。

二オ

## 且座式

當席、棚に濃茶器<sup>濃茶器</sup>カサル

〇一

東、出迎・引出之事

〇二 客、座入済候ハ、東出、座ニ付ク。半東、花臺持出、床へ直ス。

〇三 東、花の客へ時宜<sup>(詳應)</sup>。花の客、花生ル。半東、炭取持、

勝手口に控へ居ル。

〇四 花の客、花済、本座へ戻る。半東、炭取持出、例の所ニ置、

羽箒出シ、釜上ケ、一寸はき、其手にて花臺引、

灰法樂持出、例所に置、勝手口ニ控ル。此時、香盆控廻ス。

但シ、小間ナラハ、法樂引、香盆持出ル。

〇五 炭の客へ亭主時宜<sup>(詳應)</sup>。炭の客、炭次ク。如例、主・客トモ

二ウ

拝見、炭済、各本座エ戻ル。

○六 半東、香盆、香の客へ持行、釜懸、法衆引、濃茶器

置合、炭取引、勝手口ニ控。但シ、茶碗持、控ル事も有り。

○七 東、香の客へ時宜。香の客、香タキ、順に廻ル。各次礼。亭主ハ

上客へ礼シテ、香キク。香元へ、香炉戻ス。香元キ、香盆、

元ノトヲリ、銚り直ス。半東、香盆引、茶碗持出、如例

運ヒ、建水持出、次ノ畳の角ニヲキ、東の末座へ直ル。

○八 東出、濃茶黙出シ、客方、惣礼済。半東出、主の席へ

直リ、茶、相伴スル。

○九 上客、伴東へ茶碗所望。順に見て、末座へ東へ戻ス。

如例、惣礼。此時、半東、銚り菓子(かざり)持出ル。東戻し、茶碗ス、キ、

本座へ戻ル。半東代り、薄茶黙ル。

○十 銚り菓子、上客ヨリタン、廻ス。末座ヨリ、上客へ戻ス。

尤、茶吞ヌ人ハ、次へ其挨拶スル。

○十一 薄茶相済、如例、上客、三種所望スル。半東答エ、

如例出ス。客、順ニ見ル。

○十二 半東、道具引。水指、水ツキ、棚へ直ス。

○十三 末座ヨリ、三種戻ス。半東引、并ニ東モ引。

○十四 東・半東同道、客ヲクル。

三オ

三ウ

○五 客、退身。 以上

附録 客大(多)キトキハ、華、二人モアリ。花生ハ

二重切、可然歟。

同二人香モアリ。是ハ外ニ香炉、香盆ニノセ

半束持出、取りカエル。

尤、客方、香包、持参。可然候。

炭取へ、香合入レ不申候事

華臺・小道具、取合可申事

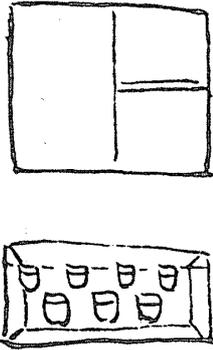
四才

茶(ちや)加(か)富(ふ)喜(き)之順

(なんぢとじ)何成共、棚カ鏝カル事

但シ、茶加富喜ニハ一切道具ノ  
拝見ハセヌナリ。

紅帛紗の此折目ニテカケラク。



額盆へ異棗並ル

但シ、コ、ロミ茶ハ前棗。茶名、面へ印ス。

本茶ハ向棗。茶名フタウラへ印。

此額盆、棚上へ乗セカさり置。



五オ

○五 主人、濃茶、黙なまル。但シ、コ、ロミノナツメハ、二文字ニフク。尤、初ノ糺斗フク。其外ハナシ。

本茶糺ハ、常ノトヲリフク。コレモ初メハカリ、フク。其外フカス。

中フタ、ココロミノ初ハカリ、其外ナシ。

勿論、中仕マイモ、コレナキ事。

○六 初ノ茶、黙イツル。客一統、惣礼。勿論、次礼つきシテ吞ム。

二ノ茶ヨリハ、次礼モナシ。

○七 亭主、糺追々トリカヘル事。下地ナツメ、盆ヘモトシ、

次ノナツメ、置合。茶杓アツケ所、定法ノトヲリ。

○八 コ、ロミ茶スミ候ハ、上客コリ本茶ノ挨拶。亭主、受ル。

下地糺ノ上ノ茶杓、水サシノ客付ヘナラシ、糺、盆ヘ戻シ、茶筌、建水ノ向ヘヲキ、棚ノ方ニ向イ、糺・盆オロス。但シ、盆ハ左リ廻リナリ。

但シ、本茶ノ挨拶ハ試茶ノヲワリ、中座比ニ有、セツスルナリ。ナラヒニ、本茶糺トリカヘ、茶杓モ両品フク。本茶ノ挨拶ハ、亭主受ル。

此トキ、亭主、棚ヨリ茶・糺・盆ヲロシ、稽古ノトヲリ

廻シ、棚ヘモトシノセル。其間ニ茶碗戻リアリ。

本茶黙ル。此トキ、湯ス、キ水ス、キ。茶筌、湯ス、キ、茶筌ハ

カサリ、湯ハ其マ、茶巾タ、ミナラシ、湯ステ、フキ、本茶黙ル。

此時、執筆、書初ル。上客、名乗紙取マワス。

○九 本茶、黙イツル。初、惣礼。次礼・其外ハ、ヲクリ礼ノミ。

但シ、折居マワスハ、茶、中座ニ有コロニテヨシ。

五ウ

○十 本茶、初フクスムト、上客ヨリ一ノ折居エ、名乗紙不残

切ハナシ、其内コレトヲモフヲ四ツニヲリ、ネシテ入レ、マワス。

名乗紙四ツ折ニシテヒネリ——スカク。 

末座ヨリ執筆ヘワタス。執筆受トリ、記録ヘ印シ、アト、

本ノトヲリ折居ヘ入、ノケヲク。二ノ茶ノトキ、折居同様ナリ。

残り名乗紙ハカサネ、我ガ前ヒサヨリ出サル様ニ

上客ハ上 二客ハ上

三客ハ下 余ハ順之。



此ノトヲリ角ヲ折カケ、名乗人ニ見ヘサルヤウニシテ、扇子にて押し置く。

アトニフクノトキ、折スエ、一トキニ仕マイノ茶出サス、先キニ

マワス。末座、折居ニツ執筆ヘ持参、執筆受トリ、追々

記録ヘウツシ、納ノ折居ハノケヲキ、一応改、後ニテ認ル。

○十一 仕廻ノ茶碗戻ス。惣礼。上客、仕廻ノ挨拶。亭主、稽古ノ

トヲリ仕マイ、棗盆ヲロシ、執筆ノ前ヘ持行、本茶ノ

フタヲアケ、執筆ノ向ヘナラヘル。執筆、認ル。

其間ニ水指ヘ水ツキ、棚ヘ外ノ茶器鋳リヲク。

但シ、記録<sup>マツ</sup>早末認め出来候ハ、水ツク事ハ後ヘマワシ、記録持出、ヲクリモ仕マイテモヨシ。

○十二 記録キ、勝ノ客ヘワタシ、讀テ亭主ヲクル。

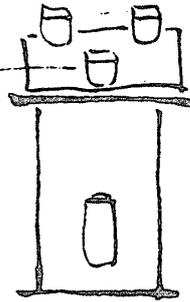
但シ、記録同シキ、ナレハ、上座ノ方ヘワタス。客、上座ヨリ退身スル。

客中キキナキトキ、ワタサス。勝手口ニヲキ、時宜。

一燈初ラレシ

略茶カフキ 何成共、棚錆ル。

棗三ツ如図上ヘカサル。盆用ル。



コ、ロミ茶、蓋面へ印ス。但シ、長盆。

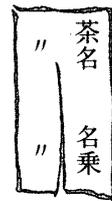
本茶、蓋裏へ茶名印ス。

コ、ロミ茶 一種 本茶 二種之内

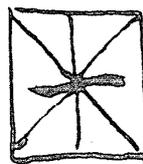
一ツ也。

尤、記録ナシ

名乗記紙



折居一ツナリ



○一 亭主出迎イ、客席へ入、座ニ付。亭主、折居ノ上へ名乗紙乗セ、上客ヘワタス。

○二 茶碗持出、棚ノコ、ロミナツメヲロシ、置合セ、道具ハコヒ、常ノトヲリ黙ル。但シ、中フタハカリ、中仕廻ナシ。コ、ロミ茶、黙

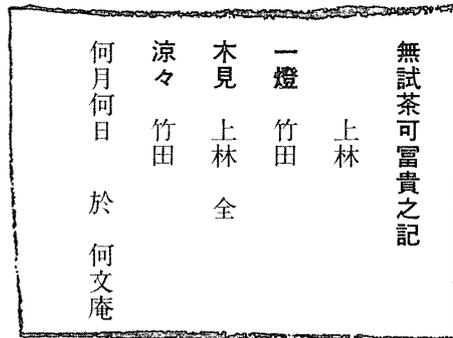
## 七オ

- イタシ、水サシフタ明ケ、水サス。
- 三 客方、末座マテ茶マワシ候セツ、上客ヨリ、本茶所望スル。  
亭主答へ、右左ノウチ、差図カフ。(まじ)上客、何レナリトモ極、(まじ)答ル。  
亭主受テ、裏トリカヘル。勿論、本茶ノナツメフキ、茶杓  
フキ、道具、置キ合ス。
- 四 末座ヨリ、茶碗戻ス。此トキ、名乗紙、上客ヨリ廻ス。  
亭主、茶碗受トリ、湯ス、キ、水ス、キ、略、茶釜湯ス、キ、  
又、略、茶釜湯其マ、茶釜ハカリナラシ、  
并に、茶巾シホリ直ス。
- 五 本茶、黙テ出ス。上客ヨリ次礼シテ吞廻ス。茶ワシ  
末座ヨリ、モトス。惣礼。上客ヨリ、仕廻ノ挨拶スル。
- 六 上客ヨリ折居へ存シ付ノ方、差礼一マイ、四ツ折ニシテ入レ、  
折居、順ニマワス。末座ニ控ヘヲク。
- 七 亭主、例ノトヲリ仕廻イ、建水へ柄杓カケ、本茶ノ  
フタアケ、見テ、亭主、客ノ方へムカイ、本茶ノ名イ(め)  
何ナリトハナス。上客、一寸時宜。
- 八 亭主道具引候ノチ、末座ヨリ、折居戻ス。亭主、  
折居引、続テヲクル。客、退身スル。
- 九 亭主、水指へ水ツキ、代り棗、盆乗セ、持出、鋳リ直ス。

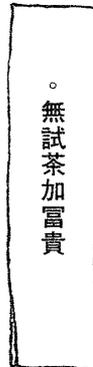
七ウ

無試茶可富貴ハ常例之式ニテ茶二種銚リ、  
其内一服タテル。  
但シ、平日互ニ出合候所ニテ、其家ノ茶存シ合ニ付、  
別ニ試出サヌ式也。茶二品ノ内、入交、一品タテ出ス。

記録



カケ板



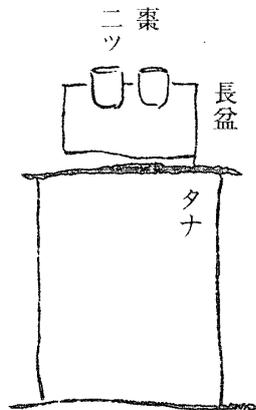
名乗紙



ヲリスエハ一ツ也

八才

古流之茶可富貴ハ、試茶四種、  
本茶五種ナリ。  
客トモ  
黙方、常例茶カフキ同様。但シ、数服ユエカサネ茶碗用ル。  
長盆、試四ツ、本茶(客トモ)五ツ、カサル。



八ウ

記録

茶可富貴之誌	
竹田	堀上林星野林
宗易	上林竹田堀星野林二
宗左	竹田堀上林星野林全
宗室	竹田堀上林星野林五
何月何日	於……………

但シ、此茶可富貴ハ、余リ茶カズ多キユヘ、数度ハ不好方ナリ。

(空白)

名乗紙

竹田	堀上林星野林
名	” ” ” ”

カケ板

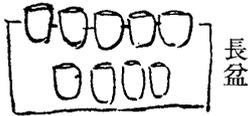
。上林
竹田
堀星野
客林

折居 但シ、折居一ヨリ五迄

五ツ出ス。



五茶本



四茶試

雪月花之式

〇一 亭主出ムカイ

〇二 客入スミ候ハ、

亭主、折居持出ル。

〇三 例ノコトク、水サシ。棗・茶碗・建水持イテ、コホシ花月ト同断ノ所ニヲキ、

亭主、飯ノ座ニ付。

〇四 上客ヨリ折居マワシ、末座・亭主マテ札ヒラキ、花ハカリ、

花札ニアタリ候モノ、花月同様ニ茶タテル。但シ、一人呑候ヤウニタテル。

〇五 亭主、茶手前ノ茶杓、ト茶、但シ茶手前柄杓引候トキ、主客惣礼。座アキ候ハ、クリ上ケ入候トキ、上客ヨリ、折居マワス。此夕ヒハ、「札ノ人月・雪ト

二人、茶、コイ茶ノトヲリ、次礼シテ吞。「花札ノ人花トナノリ、茶ノ手前え

但シ月雪花ト此名ノリスムト、下地ノ茶手前ノ人、飯座ニツク。スワル。

〇六 是ヨリ、何ヘンニテモ、茶杓トリ候トキヨリ、上客、折居マワシ、花札、

茶ヲタテ、月雪二人、茶吞。「いり退き勿論、入ノキハ、花月同様、札ノ表印

何成トモナノル。仕廻ノトキハ、上客ヨリ折居スミカケマワス。

茶碗、仕舞茶主之戻ストキ、惣礼。花月ドウヤウ、此トキ主客トモ、

本ノセキヘ坐ガワリ。但シ、亭主、カリノ座ニツク。

〇七 茶手前、如例。仕廻、建水・フクサ、初ノトコロニヲキ、本ノ座ニツク。

亭主、道具引。

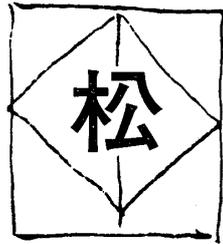
- 八 上客ヨリ、折居、亭主え戻ス。亭主、折居引。
- 九 客、立ツ。亭主、ヲクル。

十才

右式、惣シテ花月順ス。多人数ニテ、花月ニテ行届キ兼候時、宜ク候。

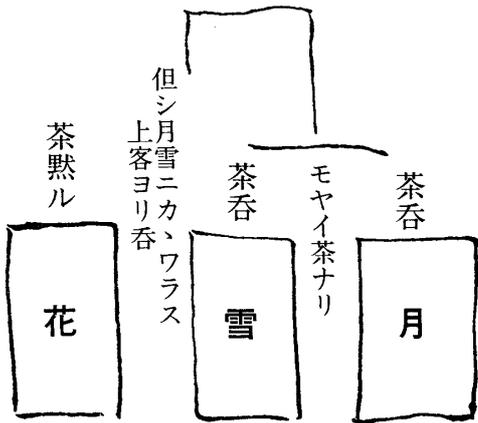
但シ、棚モノ、何ニテモ用。座ナラヒ、花月ト同様也。

コイ茶ツキ、炭ツキ、花ツキ杯ト、ソノトキノ模様、イロ、口傳。



折スエ一ツ

役札



外  
ウ  
ハ

何マイニテモ

コノ印  
ナリ

ウ 三 二 一

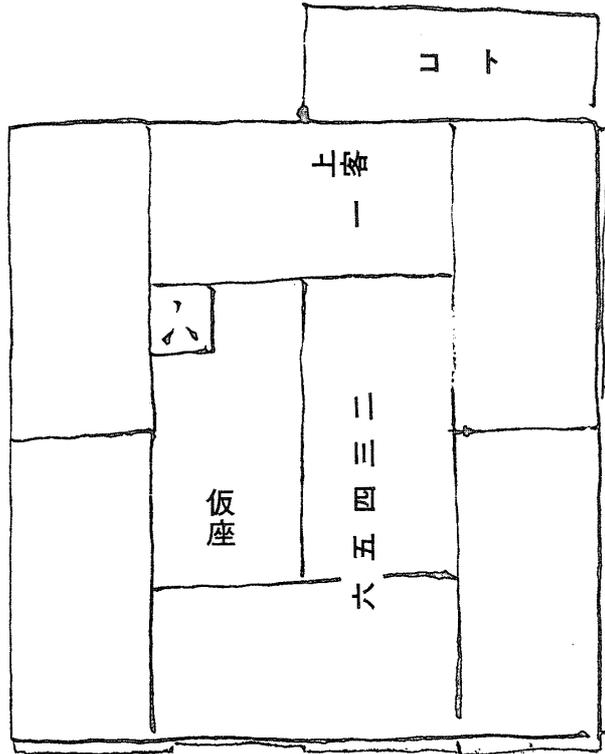
『速水流茶道初心聞書』井川健司

十一才

十ウ

一 花橘式之事は、千家其外共無之。速水古  
 宗達宗匠、專 御堂上・御高位方諸家之  
 御立入仕候二付、花月之式二、御高位、御交・御遊

ハナタチバナシキ  
 櫻橘式



雪月花座付如此

スベテ花月ノシキ同シ事ナレトモ、  
 事カワルユヘ、印ス。

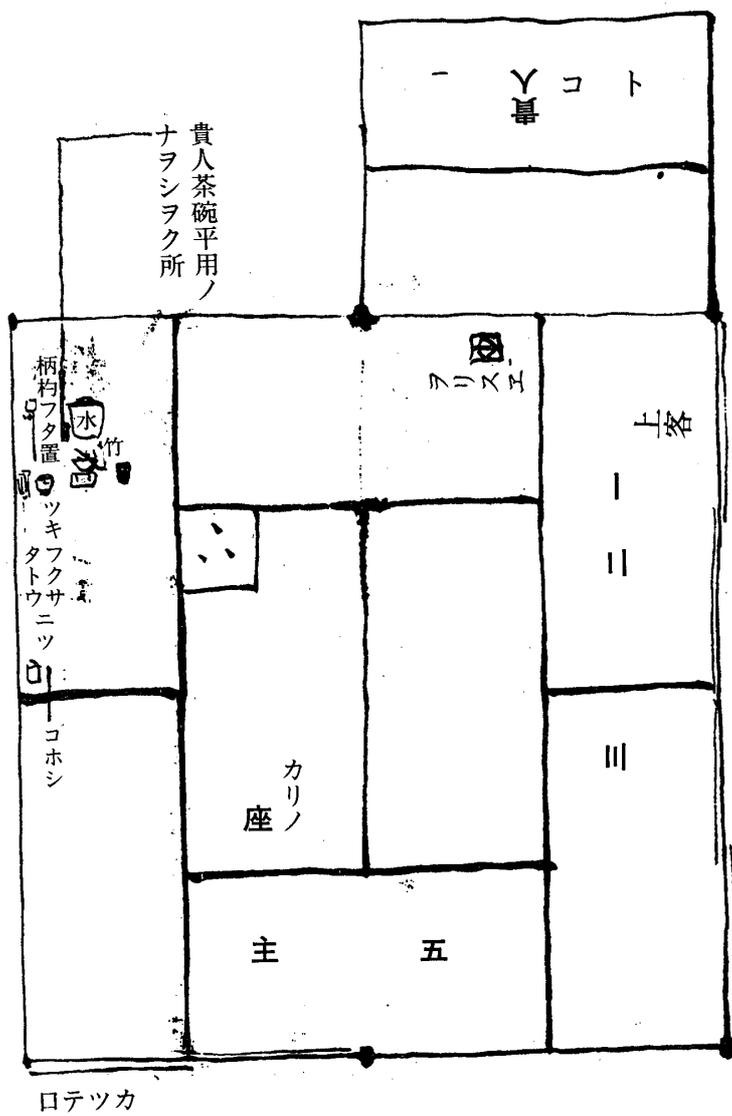
客入椽

口手勝

被為<sup>(マ)</sup> 仰出候處、元來七事、何れも同輩之式、  
 貴賤離分。依之、号<sup>ハナタチハナ</sup> 櫻橘、高位御交にても、  
 清次相分候様之式、新二清作被致候事。<sup>あつた</sup>

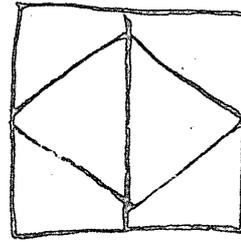
席之図

初座客着座道具運付



十二才

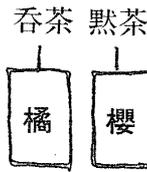
折居表、印ナシ。大形ニ折也。



役札二枚ノ外ハ何枚ニテモ

四季ノ花

役札二枚



如此札也。但シ、絵ニテ書付候事。  
ヨロシク表ハ無地、裏之画。

右折居マワシヤウ、花月同ヤウナリ。名乗ハ、  
ハナ・タチハナ、ト名ノル。退キ<sup>②</sup>・入りハ、退クトキハ、別々  
名ノルニヲヨハス。入ルトキハ、名々、持札ノ花名ヲナノル。  
コレハ、札ニ表印ナキユヘナリ。

十二ウ

櫻橋式之順

〇一 亭主、ムカイニイツル。

〇二 貴人ヨリ席入。タン、末座マテ、相件ノ凶ノ所エ着。

〇三 亭主、カツテ口ニテ時宜、折居モチ出、上客エワタス。

〇四 亭主、水指ヨリ道具、上客請取、凶ノ所ニ控ヘラク。凶ノ所エハコヒ、建水、凶ノ所ニ控ヘラク。凶ノ所ニラクキ、座ニ付ク。

〇五 上客、折居、貴人ノ前エモチユキ、貴人、札トリ、上客請トリ、

客、末座・亭主マデ折居マワスト、各々札名ナノルト、末座ヨリ

折居、平例ノ通り、上客エモトス。上客請取、自身札入、并ニ

貴人、札請取、折居エ納メ、折居、控ヘ所ニラク。

〇六 ハナ札ノモノ、建水ヲモチ、水指ニムカイ座シ、柄杓・フタ置

モチ、例ノ所ニ柄杓引、時宜。但シ、初フク貴人ナラハ、柄杓ノ時宜イラス。

夫ヨリ例ノ通り、茶碗・棗、前にラクキ、タトウカミノ下タノ帛紗

トリイタシ、如例フクナリ。但シ、初フクノ茶札貴人ナラハ、小掛臺ヲトリ、茶碗ノ所ヘラク。茶札相件ノ内ナラハ、小カケ臺ハ其俣ラクキ、相件ノ茶碗トリテラクキアワス。

〇七 棗フキ、例ノトコロニラクキ、茶杓フク。但シ、茶杓ハ一本ユヘ、貴賤トモ臺ノ茶杓、トクフク。

茶ノ黙シヤウ、別ニカワル事ナシ。但シ、貴人ノ茶碗ナラハ、茶杓、フチニテウツ。相件ナラハ、茶杓茶碗ヘサヘス。

十三オ

## 十三ウ

貴人ノ茶巾ハ、タトウカミ水サシノマヘニテ、水サシノフタヲ置キ、其上ニテヲク。  
 相伴ノ茶巾ハ、二ツカサネノ下ノ「タトウカミ、前へ引タシ、其上カ、釜フタ上カニヲク。  
 「コイ茶ノトキハ、イツレタトウノ上ナリ。」

## 〇八

如例、茶黙持マワリ、定坐へイタス。  
但シ、ハナノキ居候ハ、持廻ル事  
 イラス。併、小懸臺ハ、ノキテモ  
 持マワルナリ。

尤、上客、例ノトヲリ茶碗之茶入ルトキ、ヲリスエ、マヘノゴトク

貴人ヨリ末座マテ廻ス。末座ヨリ亭主へワタス。

## 〇九

ハナ主、折居トル。客・主トモ、札名ナノル。コノトキ、初服ノ  
 タチハナ、茶ヲトリ、ノム。下地ノハナ、カリ座へユク。

## 〇十

ツキノハナ、茶黙ニユク。下地ノハナ、本座へユク。

但シ、大広間ナラハ、貴人ノ外ハ、定例、花月ノトヲリ、初メ  
 ハナ札、柄杓引候トキヨリ座カハリ、夫ヨリ花月ノトヲリ。  
 併、貴人ノマヘ、アマリ立サワキ候事、ヨロシカラス。矢張  
 カリ座ナシ居、ナリヨロシ。可然か。

附録 花月、初二花ハカリ名乗ル。又、此櫻橘ハ貴人交リ候ユへ

茶碗定ユへ、初ヨリハナ橘ト名乗也。二服ヨリ同断。センクリ、

下地ノ橘ヨリ、茶吞ナリ。何服ニテモ、ヲナシ事ナリ。

貴人茶碗・相伴茶碗、トリカヘノトキハ、イツニテモ初ノ

絵図ニ  コノトヲリ印アル所へ、貴人ノ茶碗ナヲシヲク。

## 十四オ

## 〇十一

茶、仕廻ノトキハ、折居マワサス。其俣ヲクト、ソノ

トキノハナ、仕廻トコ、ロへ、仕マイ候事。茶碗戻ス。惣礼。

但シ、折スへ、上客アツカリナレト、上客、ハナ札ノトキハ、次座エ  
タノミラク。次座ヨリ、貴人へモ末へモマワス。退キ候時モ、同断。  
尤、貴人、ハナ札ノトキハ、茶、御入レ候トモ、黙茶スミ本座へ御カヘリ  
ノトキ、折居マワス。御ノキナラハ、矢張例ノトヲリ。併ナカラ、  
御貴人、ハナ札ノトキハ、御ノキ都合ヨク候。

折居仕マイ廻サス候トキ、若、末座ニ退キ、礼ノコル、  
コレハ何如。追て宗匠御下のセつ、尋可申事

(貼紙文)

十四ウ

○三 仕廻ノハナ、道具仕マイ、建水、例ノトコロニヲキ、本座ニツク。

亭主、コホシヨリタン、道具運ヒ入ル。此トキ、上客折居戻ス。

亭主、折居持入り、勝手口ニテ時宜。上客ヨリ末マテ  
ウケル。

○三 亭主、ヲクリ。客、立ツ。

右は、炉右運ヒ手前、薄茶式也。此外、棚物・濃茶付キ・

炭ツキ・花付キ、色々口傳。風炉ハ、置所違イ候。奥書ニ

絵図印ヲキ候。